

株式会社 出雲東郷電機

環境経営レポート

2023年度 《対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日》



ご挨拶

東郷電機グループは、1974年3月に、鳥取県東伯郡湯梨浜町（旧、東郷町）に於いて創業し、現在、国内4拠点・中国1拠点でスイッチ・コネクタの生産、生産設備および検査設備の設計／製作、部品加工などの事業を行っています。出雲東郷電機は、ご縁を頂き、産業機器向けスイッチ生産の基幹工場として2014年4月に島根県出雲市に於いて創業しました。



代表取締役社長
前田 和雄

当社の原点は、東郷電機グループの創業者が制定した社是・経営理念の精神であり、一人ひとりが仕事を通して人間力を高め、仕事の質、製品の質を高めることで、「お客様に喜んで頂ける（＝社会へのお役立ち）」を追求すること。また、「人の和」を大切に、真に協力し合える集団となり、自分たちの会社を自分たちで良くし、自分たちの幸せを追求していくことです。

グローバル競争の激化、生産年齢人口の減少、環境問題など私たちを取り巻く環境は変化し、取り組むべき課題は山積していますが、元気に、明るく、楽しく、「新しいものづくり」・「新しい価値創出」への挑戦を続けています。

社是

人の和を愛し、会社を愛し、勤めを愛す

経営理念

仕事によって自己を磨き
品質によって会社を伸ばし
事業によって自分に報いる

その中で、環境問題については、地球温暖化、廃棄物の増加、資源エネルギーの枯渇など、問題が深刻化しています。

環境保全と企業活動の両立は、企業の果たすべき重要な役割であり、当社は、創業の2014年にエコアクション21を取得するとともに、2014年以降、環境負荷軽減の取り組みを進めています。

これまで、本業での生産性改善による省エネ、品質改善による廃棄物量の削減、全社員への意識醸成を図りながらの電灯・空調の省エネや廃棄物の3Rの取り組み、省エネ仕様の電灯・空調等の機器への更新などを進めてきました。

また、2020年4月からは、NTTアノードエナジー様のオンサイト型電力供給が稼働し、当社へのグリーン電力の供給が開始されました。これにより、当社のグリーン電力化率は36%となるとともに、二酸化炭素排出量は、前述の取り組み成果も合わせて、2023年度は、2014年度比で、50%削減する事が出来ました。

当社は、持続可能な社会の構築に向け、環境保全と企業活動の両立への更なる挑戦を続けていきます。

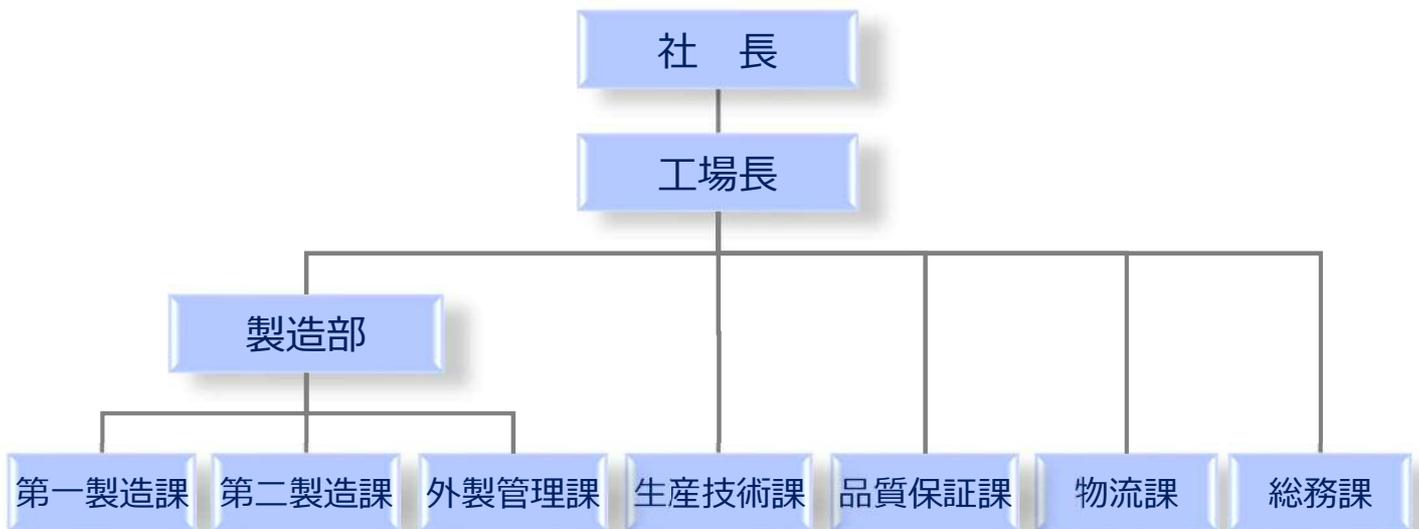
株式会社 出雲東郷電機

代表取締役社長 前田 和雄

組織概要と対象範囲

- 【社名】 株式会社 出雲東郷電機
- 【代表者】 代表取締役社長 前田 和雄
- 【創業】 2014年4月1日
- 【製品出荷額】 10億1100万円
(2023年度)
- 【従業員数】 社員101名 (男性30名、女性71名)
(2024年7月16日時点)
- 【事業内容】 産業機器用スイッチの組立・検査
- 【認証・登録の対象範囲】 当社で行う全活動、全組織

【組織体制】



【生産ラインナップ】



東郷電機グループ



株式会社東郷電機製作所 赤碕工場
鳥取県東伯郡琴浦町松谷274-3



株式会社東郷電機製作所 本社工場
鳥取県東伯郡湯梨浜町門田906-1



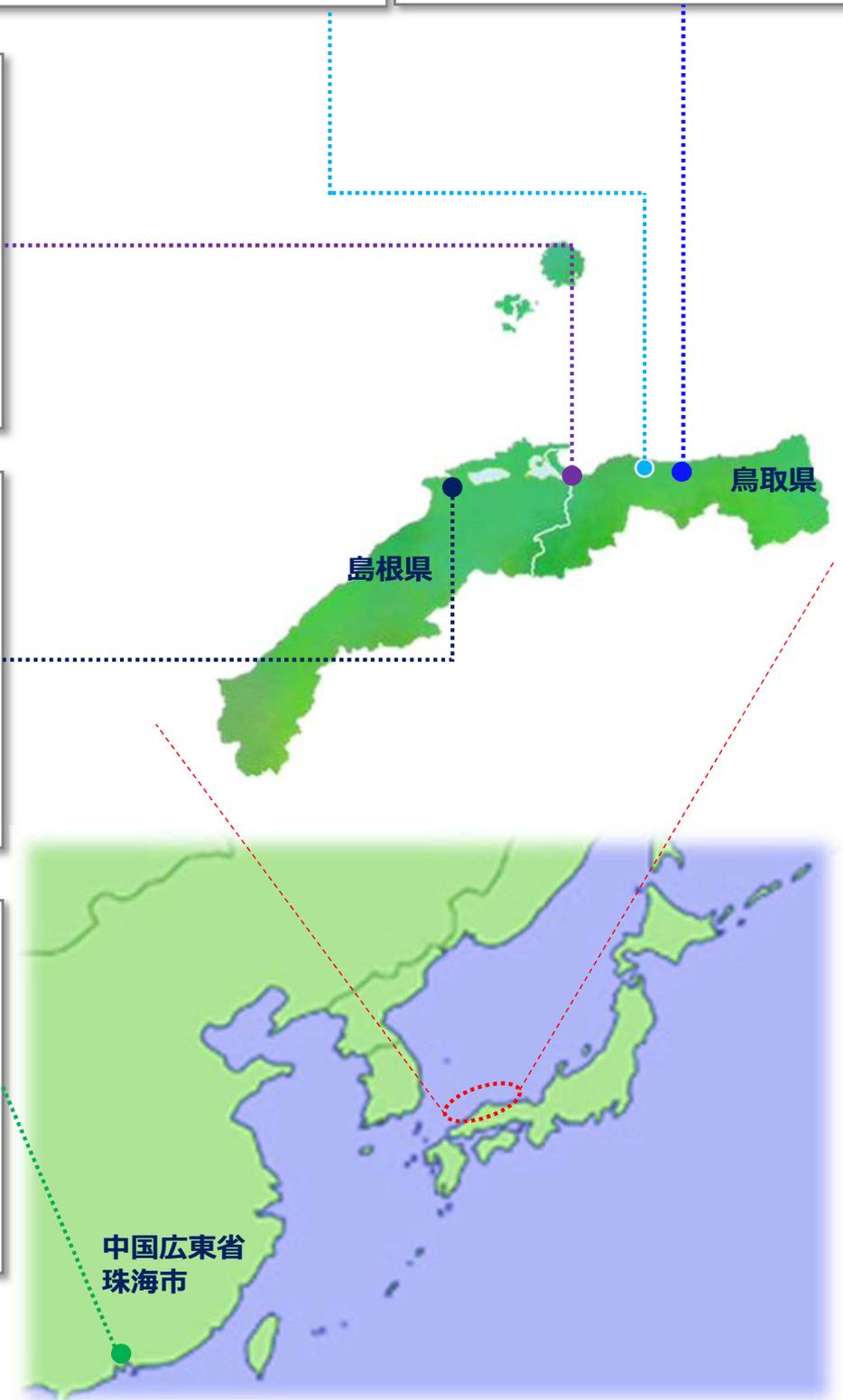
有限会社ワイテック
鳥取県米子市河崎22-1



株式会社出雲東郷電機
島根県出雲市西林木町626-1



為達電子有限公司
中国広東省珠海市
南屏科技园屏西10路6号



環境経営方針

基本理念

当社は、環境問題の保全が企業活動における重要課題と認識し、当社が環境に与える影響を社員一人一人が自主的に、継続的に低減するための環境活動に取り組み、自然環境との調和と地域社会との共生を目指します。

方針

1. 環境保全活動として、次の事を重点課題として取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量削減のため、電力・化石燃料等のエネルギーの有効利用と、太陽光などの自然エネルギーの効果的利用を進めます。
 - (2) 循環型社会形成のため、廃棄物の削減とリサイクルの推進に取り組みます。
 - (3) 限りある資源の有効活用のため、生産効率向上と不良率削減に取り組みます。
2. 環境経営目標を設定し、定期的にその効果を評価し、必要に応じて見直しを行うと共に継続的改善に取り組みます。
3. 環境関連の法規制を遵守します。
4. 地域社会との調和を目指して社会貢献活動の推進を行います。
5. 環境への取り組みを環境経営レポートにまとめ公表いたします。

制定日 2014年 4月 1日

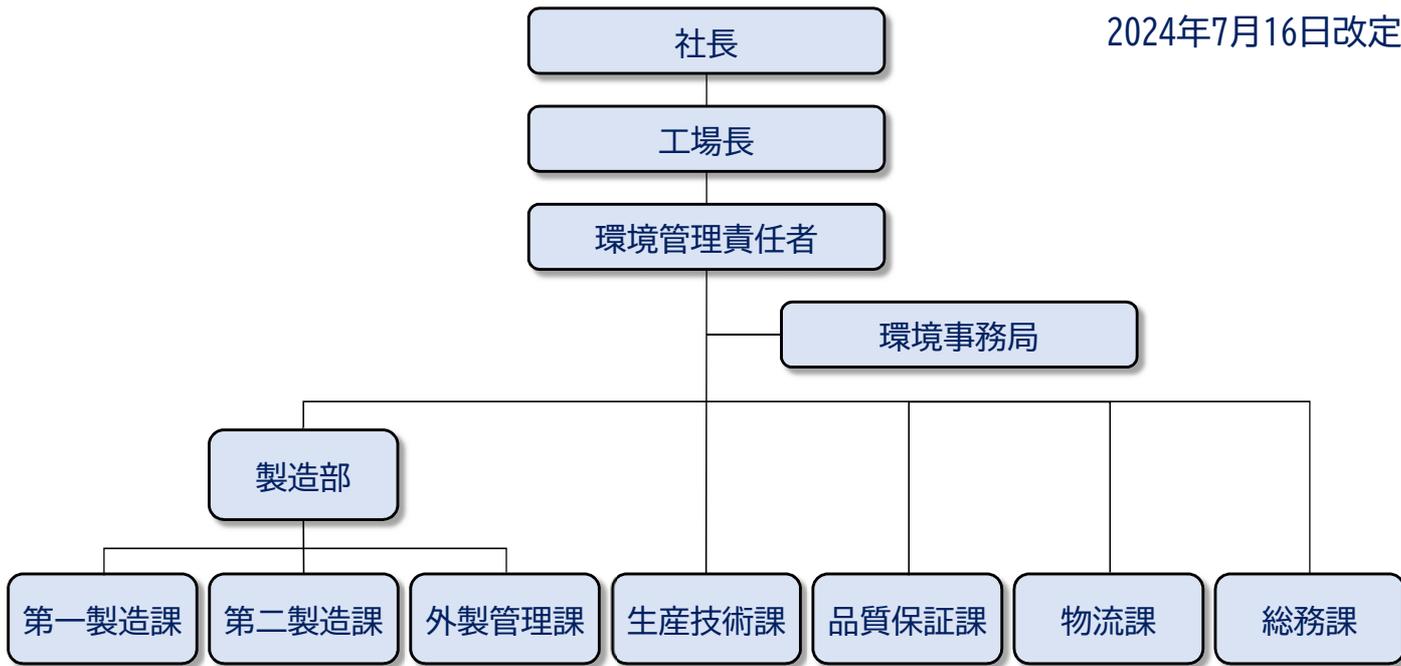
改定日 2021年 4月 1日

株式会社 出雲東郷電機

代表取締役社長 前田 和雄

実施体制

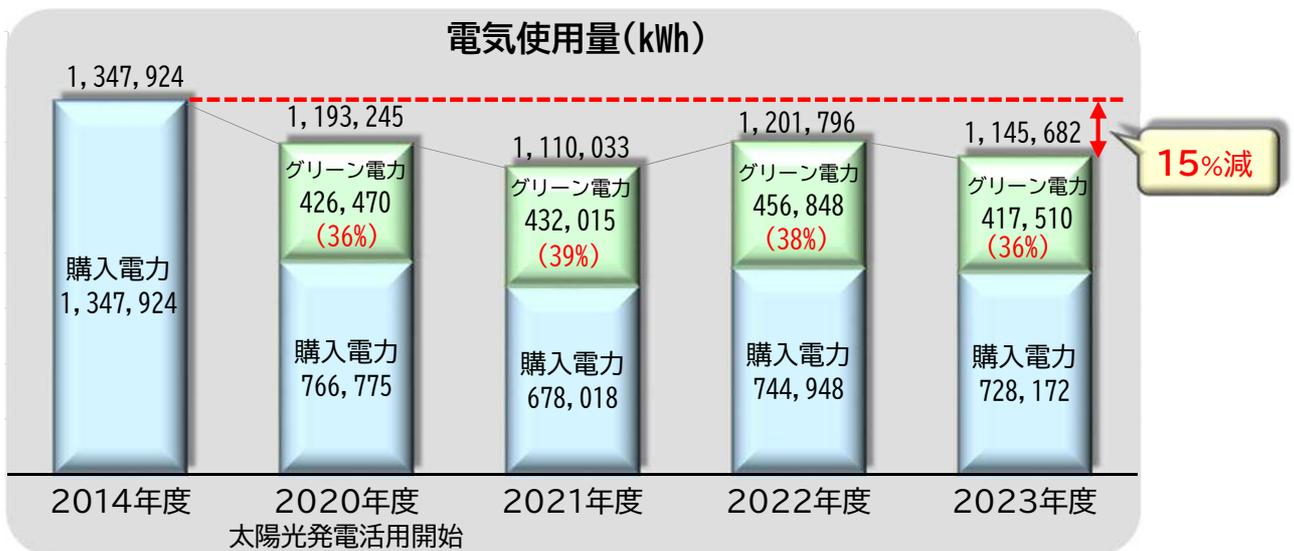
2024年7月16日改定



役 割	
<p>社長</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境経営に関する統括 ◆環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備 ◆環境経営実施体制の構築 ◆環境管理責任者の任命 ◆経営における課題とチャンスの明確化 ◆環境経営方針の策定・見直し ◆環境経営システムの評価と見直し <p>工場長</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆社長不在時の代行 <p>環境管理責任者</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境経営システムの構築と運用管理 ◆環境推進委員会の委員長 ◆環境活動の取組結果の社長への報告 	<p>環境事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境管理責任者の補佐 ◆環境経営システムに関する事務 ◆環境監視数値の集計 ◆環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ◆内部環境監査の実施準備 <p>各課部門長</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自部門における環境経営システムの実施 ◆自部門に関連する環境経営計画の実施・達成状況の確認 ◆自部門に関連する問題点の発見、是正、予防処置 <p>各課環境推進委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自部門の環境経営計画を課内で推進 ◆自部門の環境経営実績を記録し部門長へ報告 ◆内部環境監査の実施（内部監査員） <p>各課課員（全社員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境経営方針を理解し、環境活動の重要性を自覚 ◆自主的かつ積極的な環境活動への参加
<p>【補足】</p> <p>※ 環境関連文書類の責任・権限については、環境関連文書管理規程に従う</p>	

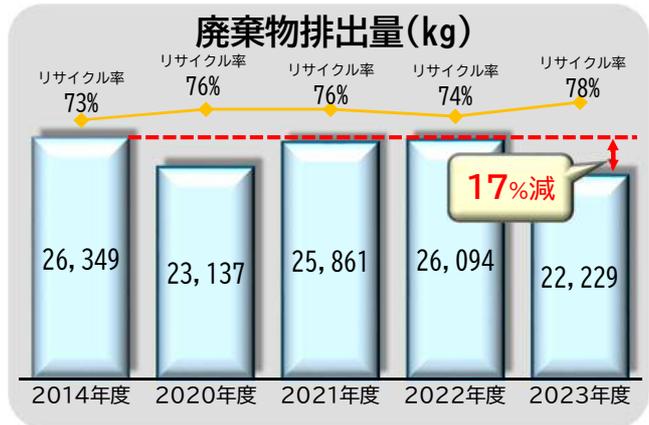
●二酸化炭素排出量の削減

- 2014年度～継続：照明の間引き、未使用時の照明の電源OFF、空調機の省エネ運転徹底
- 2016年度：外灯(水銀灯)の点灯時間短縮
- 2017年度：コンプレッサー4号機の更新と自動運転プログラム変更
- 2018年度：物流棟1階の空調機を省エネタイプへ更新、外灯(水銀灯)をLED化
- 2019年度：食堂棟・3号館連絡通路の空調機を省エネタイプへ更新
- 2020年度：太陽光発電の活用開始、2号館事務所・会議室照明のLED化、1号館・2号館会議室の空調機を省エネタイプへ更新
- 2021年度：3号館・2号館ロビー照明のLED化、3号館・物流棟2階北側の空調機を省エネタイプへ更新
- 2022年度：2号館生産エリア・事務所の空調機を省エネタイプへ更新、1号館生産エリア・2号館2階生産エリア照明のLED化、コンプレッサー1号機を更新
- 2023年度：2号館1階生産エリア・1号館西側のLED化



●廃棄物排出量の削減

- 2014年度～継続：
分別の徹底、再資源化の推進、
生産性改善・品質改善による
廃棄量削減
- 2019年度～継続：
段ボール納入からオリコン納入へ
変更の取り組み



●水使用量の削減

- 2014年度～継続：節水の徹底
- 2018年度：食堂トイレを
節水タイプへ更新
- 2020年度：1号館・3号館のトイレを
節水タイプへ更新
- 2021年度：2号館トイレを
節水タイプへ更新



●取り組みの成果・課題

2014年度から、本業での生産性改善による省エネや全社員への意識醸成を図りながらの照明・空調の省エネ、省エネ仕様の照明・空調への更新などの取り組みにより、2019年度まで徐々に二酸化炭素排出量を減らしてきました。そして2020年度からの太陽光発電の活用開始により更に加速し、併せて継続的な省エネ活動も行った結果、2023年度は、2014年度比で、二酸化炭素排出量は約50%減となりました。

2024年2月時点で空調機の約90%の更新が完了、照明のLED化は約67%が完了しています。

廃棄物排出量については、創業以来継続的に行っている品質改善による廃棄物量の削減や、廃棄物の3Rの実施により、2023年度の廃棄物排出量は2014年度比で17%減、リサイクル率は78%となっています。

水使用量についても、2018年度～2021年度の4年間でトイレの節水タイプへの更新を行い、加えて継続的な節水の取り組みにより、2023年度は、2014年度比で水使用量44%減となりました。

2022年度以降、会社生活・日常生活において一人ひとりの環境保全活動を促進する取り組みとして環境推進委員会を通じた啓発活動を行いました。今後はSDGsとの関連性を意識して、更に強化していく必要があります。また、本業の生産性・品質改善による環境負荷低減に取り組みは、引き続き継続して行っていきます。

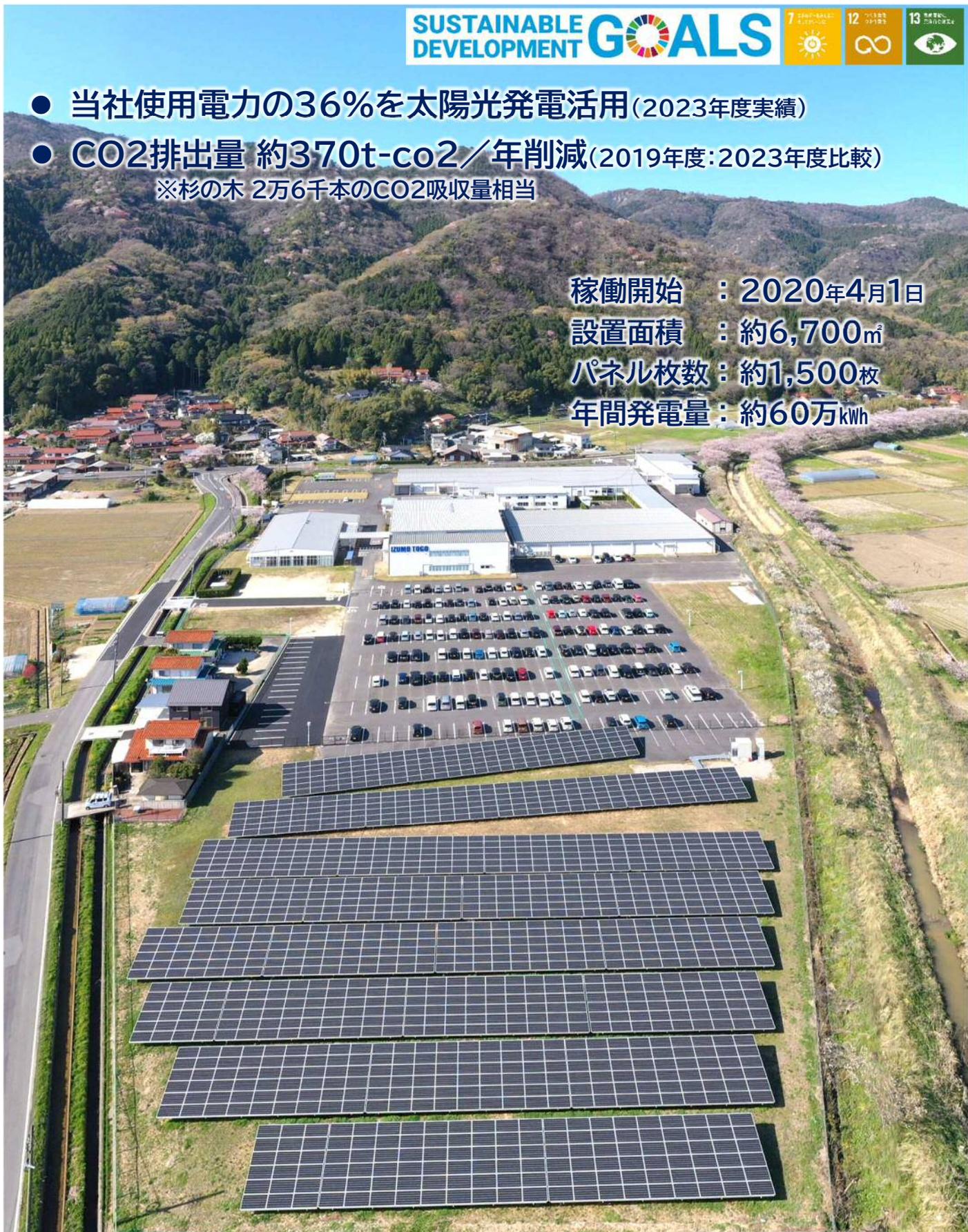
太陽光発電の活用

脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、2020年4月から太陽光発電を活用しています。



- 当社使用電力の36%を太陽光発電活用(2023年度実績)
- CO2排出量 約370t-co2/年削減(2019年度:2023年度比較)
※杉の木 2万6千本のCO2吸収量相当

稼働開始 : 2020年4月1日
設置面積 : 約6,700㎡
パネル枚数 : 約1,500枚
年間発電量 : 約60万kWh



NTTアノードエナジー様のオンサイト型電力供給により、
太陽光発電の活用を進めています

環境経営目標と実績・評価(2023年度)

項目名	2022年度	2023年度			2024年度 目標	2025年度 目標	2023年度 評価
	実績数値	目標	実績	目標と 実績の差			
1. 二酸化炭素 排出量の削減 (※1)(※2)	556.0 t _{CO2}	555.7 t _{CO2}	546.9 t _{CO2}	▲8.8 t _{CO2}	542.1 t _{CO2}	537.2 t _{CO2}	<p>上期は増産対応（前年平均比112%）により電気・ガス・二酸化炭素ともに未達となりました。通期では下期の減産対応（前年平均比下期62%、通期87%）、節電取り組み、上期実施のLED化（2号館1階生産エリア・1号館部品倉庫）の成果により電気・二酸化炭素は目標達成しましたが、ガスは上期増の影響が大きく、通期でも未達となりました。</p> <p>2020年度から活用を開始している太陽光発電での電力カバー率は前年同等の36%で、二酸化炭素排出量の削減に大きく貢献しています。</p>
1-① 電気使用量の削減	120.2 万kWh	121.7 万kWh	114.6 万kWh	▲7.1 万kWh	113.4 万kWh	112.2 万kWh	
1-② 化石燃料使用量の削減 (液化石油ガス[LPG])	13,100.7 m ³	12,100.7 m ³	13,290.2 m ³	1,189.5 m ³	13,290.2 m ³	13,290.2 m ³	
2. 廃棄物排出量の削減	26,094.3 kg	26,094.3 kg	22,229.4 kg	▲3,864.9 kg	22,229.4 kg	22,229.4 kg	<p>上期は増産（前年平均比112%）により生産増減の影響が大きい段ボールや廃プラスチック（軟質）の排出量増で未達となりました。（+10%）</p> <p>通期では下期の減産対応（前年平均比下期62%、通期87%）、3Rの取り組みにより、目標を達成しています。（達成率117%）</p>
2-① 一般廃棄物 排出量削減 (※3)	18,548.3 kg 調整前実績値 23,448.3	18,548.3 kg	16,458.1 kg	▲2,090.2 kg	16,458.1 kg	16,458.1 kg	
2-② 産業廃棄物 排出量削減 (※3)	7,546.0 kg 調整前実績値 2,646.0	7,546.0 kg	5,771.3 kg	▲1,774.7 kg	5,771.3 kg	5,771.3 kg	
3. 水使用量の削減 (水道水の用量削減)	1,410.0 m ³	1,410.0 m ³	1,450.5 m ³	40.5 m ³	1,450.5 m ³	1,450.5 m ³	<p>上期の増産（前年平均比112%）により、上期の人員はピーク時、前年平均比130%となり、トイレ排水の増により目標未達となりました。（+20%）</p> <p>通期では下期の減産（前年平均比下期62%、通期87%）による人員減（24年3月人員：前年平均比85%）、節水の継続取り組みを進めましたが、上期の増影響が大きく、目標未達となりました。（+3%）</p>
4. 化学物質使用量の把握 (PRTR制度に該当する第一種指定化学物質の使用量を把握)	12.8 kg	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う	24.7	-	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う		化学物質管理規定に沿って適正な管理ができ、使用量の大幅な変化はありませんでした。
5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善 (廃製品・廃部品の排出量削減) 対象:押しボタンスイッチ	4.5 Kg/月	3.1 Kg/月	2.0 Kg/月	▲1.1 Kg/月	製造部門にて年度毎に改善対象を決めて取り組む		7月に行った生産性改善の効果により、8月以降目標を大きくクリアしています。お客様と連携した改善活動の成果が維持されていて、通期でも目標を達成しました。

(※1) 二酸化炭素排出量の削減の目標値にはガソリン・軽油使用による二酸化炭素排出量を含む。ただし、2023年度ガソリン購入量は約550リットルで二酸化炭素排出量の割合は全体の0.2%、2023年度軽油購入量は23リットルで二酸化炭素排出量の割合は全体の0.1%未満と、ガソリン・軽油共に少量であることから環境経営目標の対象外とする。

(※2) 購入電力の二酸化炭素排出係数については、2018年度中国電力調整後排出係数「0.636kg-CO2/kWh」を使用

(※3) 廃棄物排出量の2022年度実績値は、2023年度からの分別変更を考慮し、分別変更分相当の4,900kg/年を一般廃棄物から産業廃棄物へ補正計上した値を使用。

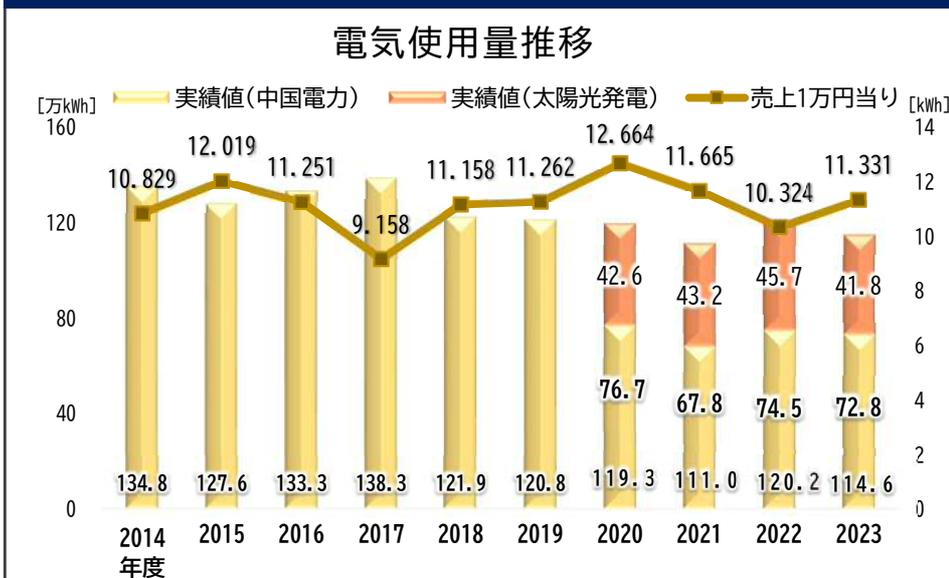
環境経営計画の取組・評価(2023年度)

No.1 二酸化炭素排出量の削減



2020年度からの太陽光発電の活用や、空調機の省エネタイプへの更新、照明のLED化、継続的な省エネ活動により、実績は2014年度比で約50%の削減となりました。
太陽光発電での電力カバー率は前年同等の36%で、二酸化炭素排出量の削減に大きく貢献しています。

No.1-① 電気使用量の削減



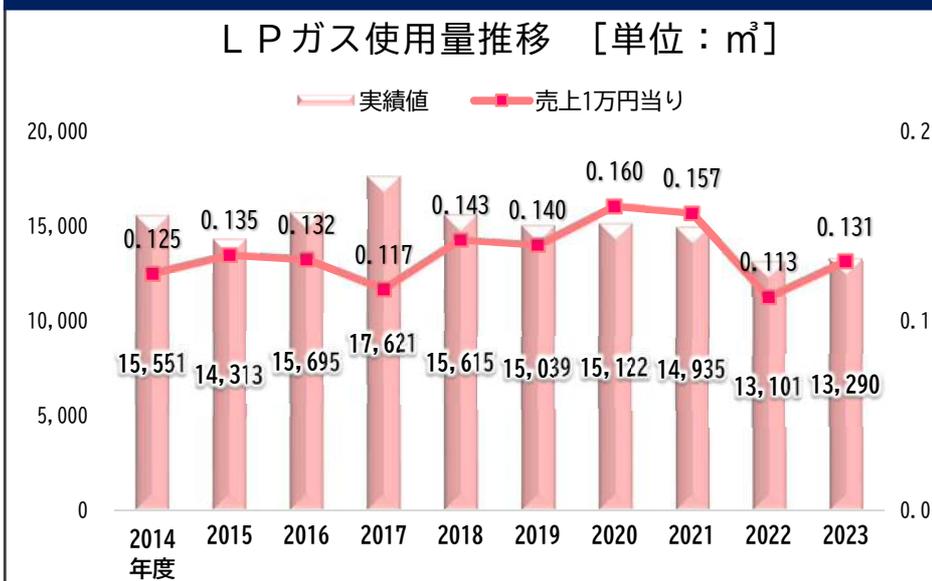
環境経営計画

- ◆ 2号館1階生産エリア・1号館西側・食堂の照明をLED化
- ◆ 物流棟2階南側・工作室の空調機更新
- ◆ コンプレッサーの稼働時間削減とエアリーク点検の実施
- ◆ 不要な電気のコマメな消灯
- ◆ 空調の適正温度管理

取組内容・評価

- ◆ 2号館1階生産エリアと1号館西側の照明(185灯)をLED化しました。
- ◆ 一部計画を見直し、食堂棟のLED化、物流棟2階南側・工作室の空調機更新は見送りました。
- ◆ コンプレッサーの定時後・休日の運用を見直し、稼働時間を削減しました。
- ◆ コンプレッサーのエアリーク点検をし、発見箇所の修繕を行いました。
- ◆ 不要な電気のコマメな消灯、空調の適正温度管理等、継続的活動も引き続き実施しました。
- ◆ 2023年度は増減産(前年平均比:上期112%、下期62%、通期87%)により、各種省エネの取り組みではカバーしきれず、売上1万円あたりの評価は悪化しています。

No.1-② 化石燃料使用量の削減(LPガス)



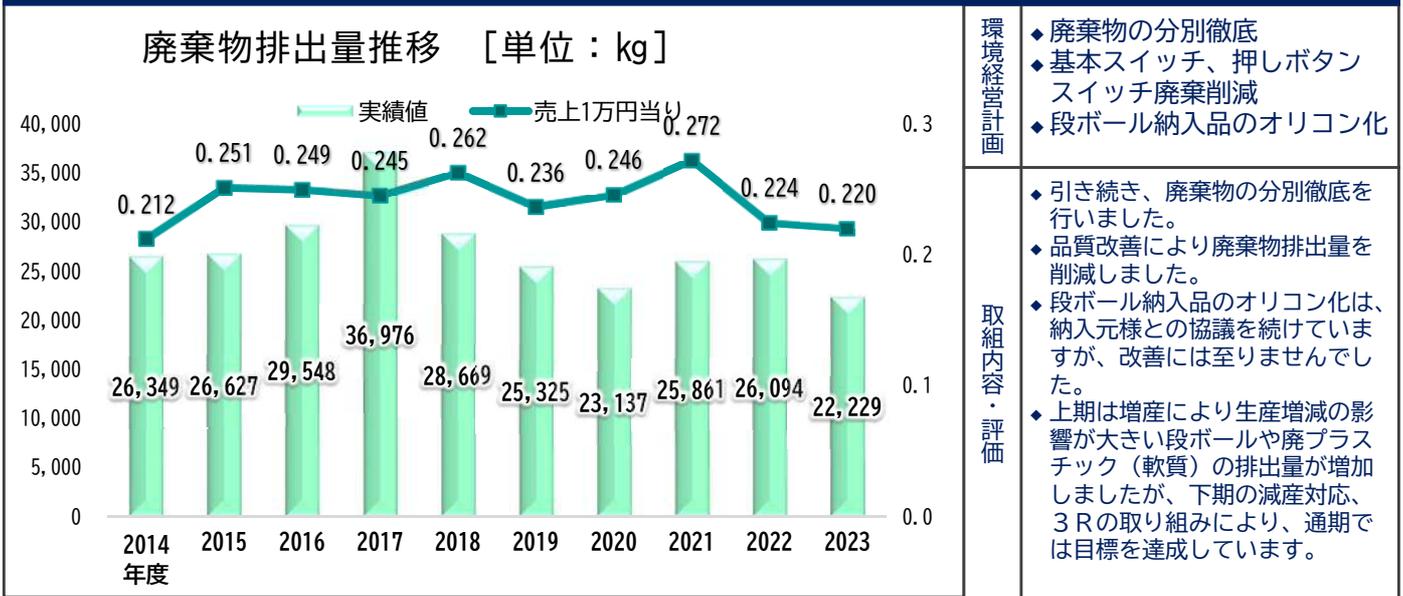
環境経営計画

- ◆ 空調の適正温度管理

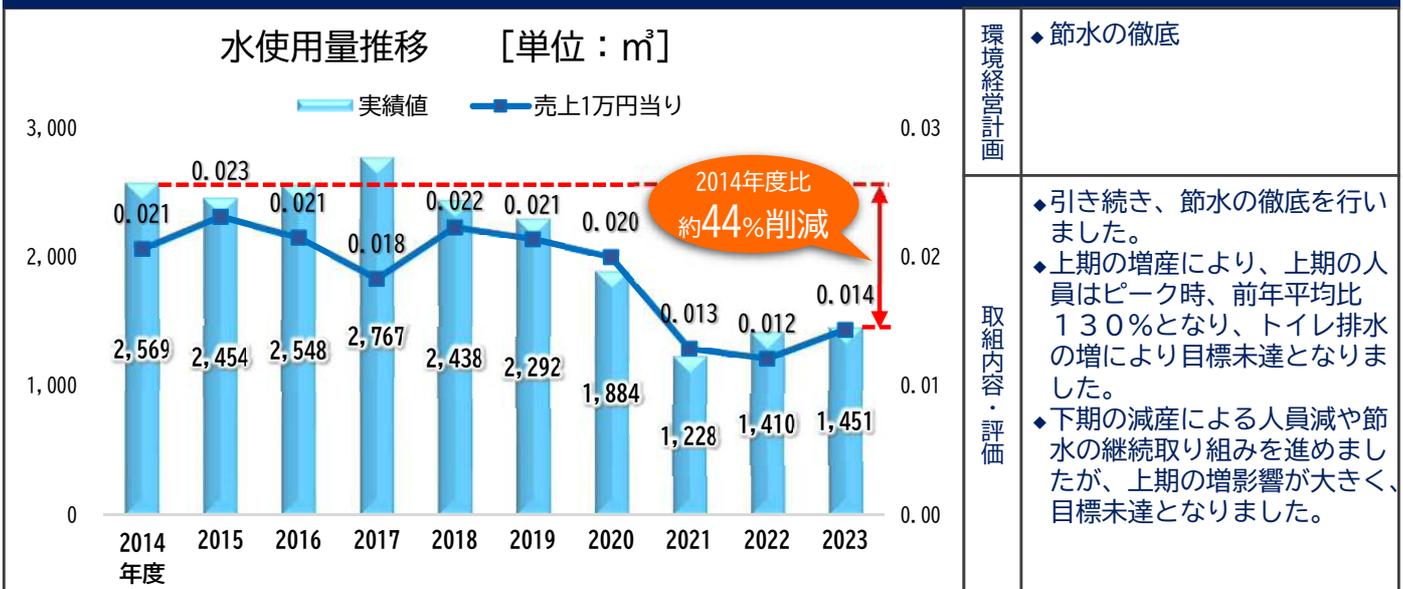
取組内容・評価

- ◆ 引き続き空調の適正温度管理を行いました。
- ◆ 上期は2022年度に実施した2号館1階事務所・ロビーのガス空調を電気空調に更新した効果で使用量削減を見込んでいましたが、上期の増産の影響により、使用量目標は未達となりました。

No.2 廃棄物排出量削減



No.3 水使用量の削減



環境経営計画の取組・評価(2023年度)

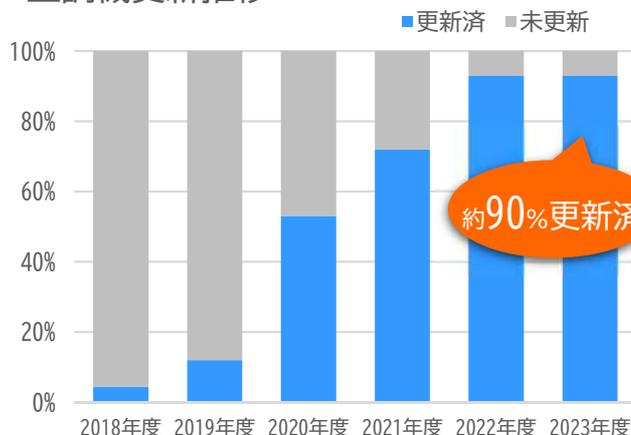
空調機更新



空調機の老朽化に伴い、計画的に空調機の更新を進めています。

2023年度は残箇所の更新を見送りましたが、2018年度からの5年で当社の空調機を設置しているエリアの約90%の更新が完了しました。今後も順次更新を進めていきます。

空調機更新推移



約90%更新済

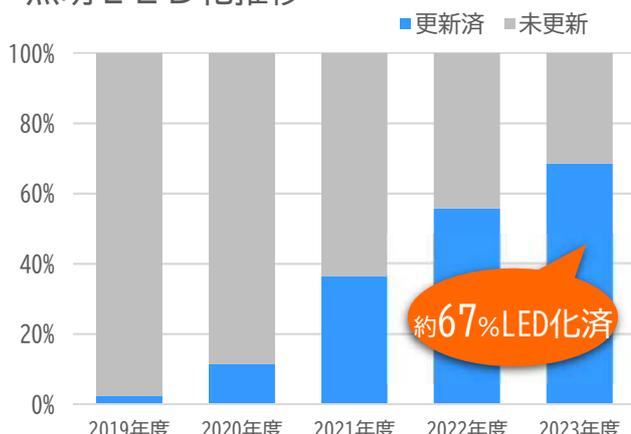
照明のLED化



2014年度(創業時)時点で、約1,800台あった蛍光灯照明のLED化を、2020年度以降、エリア毎に進めています。

2023年度は、1号館部品倉庫エリアと2号館1階生産エリアの185台のLED化を実施し、全体の約67%がLED化出来ました。今後も順次更新を進めていきます。

照明LED化推移



約67%LED化済

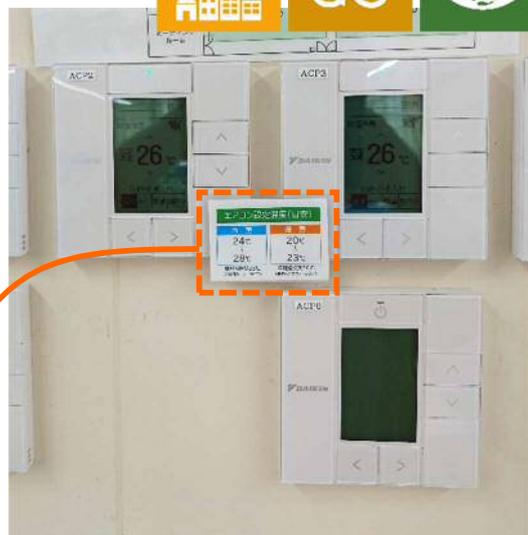
空調の設定温度基準の見直し



空調の設定温度基準を見直し、全エリアのリモコンに基準を貼って、空調の適正管理を意識付けています。2023年度は冷房の基準を24℃から1℃上げ、25℃~28℃に変更しました。

また、環境推進委員会で勉強会を実施し、環境推進委員から各課社員へ意識付け強化を実施しました。

エアコン設定温度(目安)	
冷房	暖房
25℃ ↓ 28℃	20℃ ↓ 23℃
環境省推奨28℃ (事務所カフールビス)	環境省推奨20℃ (事務所カフームビス)



トイレ改修



2018年度から順次トイレを節水型に更新し、2021年度には構内全てのトイレが節水タイプになりました。

手洗いもセンサー式にして、節水に取り組んでいます。



トイレ節水型更新推移



清掃活動



毎年、会社周辺道路のゴミ拾いを実施しています。2023年度も5月31日に実施しました。活動を通じて環境保全への意識を向上する事が出来ました。



エコキャップ回収



2017年11月から取り組んでいるエコキャップ活動は、活動が定着をし、累計で360kg-co2の二酸化炭素排出量を削減しました。



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

No.	運用される法規制	運用される事項 【施設・物質・事業活動等】	実施状況／遵守確認	遵守 状況
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 【法第12条、法12条の2】	産廃業者・特管物業者との契約	契約変更なし 許可証の写しを確認	○
2	危険物の規制に関する規則 【第39条の3、第44条】	危険物の品名、危険等級、危険物の最大数量、「火気厳禁」を表示	再少量危険物貯蔵所の現場を確認	○
3	廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 【第1条の5、第8条】	600mm×600mm以上の以下内容の掲示板 ・保管する産業廃棄物の種類 ・保管の場所の管理者の氏名又は名称及び連絡先	再生資源置場、少量危険物貯蔵所の現場を確認	○
4	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法 【法第16条】	全ての機器は四半期に1回以上簡易点検を実施する 7.5kW以上50kW未満のエアコンは3年に1回以上業者にて定期点検	年4回6月、9月、12月、3月に簡易点検を実施 3年に1回業者の定期点検は対象無	○

違反等の遵守状況の評価

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

【2024年2月19日確認】

また、創業以来10年間にわたって保健所等関連機関からの違反の指摘及び、地域住民等の利害関係者からの訴訟はありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

生産活動が企業主体である当社においては、本業での生産性改善や品質改善の取り組みが重要です。引き続き、本業改善と環境改善を連動させたテーマを更に拡大させて進めていきます。

また、地球温暖化など社会課題に対する危機意識の高まりの中で、持続可能なよりよい世界を目指すため、SDGsの取り組みの重要性は高いと考えます。今後はSDGsと当社の環境保全への取り組みとの関連を整理して取り組みます。SDGsは、学生さんや若手の関心も高いと想定され、若手を交えての活動や、環境経営レポートを活用しての外部発信など、進めていきます。

生産の増減産があると環境負荷の評価が適切に出来ない為、引き続き原単位（売上当り）での実績把握・評価を行い、改善につなげていきます。

2024年度の環境経営目標と環境経営計画

項目名	2023年度	2024年度		2024年度 環境経営計画
	実績数値	増減率	目標数値	
1. 二酸化炭素 排出量の削減	546.9 t-CO2	▲0.9 %	542.1 t-CO2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプレッサー稼働時間削減 ・エアー漏れ削減 ・設備待機電力の削減 ・未使用時の照明・ディスプレイの電源OFF など、節電対応の継続 ・空調機の省エネ運転の継続
1-① 電気使用量の削減	114.6 万kWh	▲1.0 %	113.4 万kWh	
1-② 化石燃料使用量の 削減 (液化石油ガス[LPG])	13,290.2 m ³	前年度 実績維持	13,290.2 m ³	
2. 廃棄物排出量の 削減	22,229.4 kg	前年度 実績維持	22,229.4 kg	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物分別徹底の継続
2-① 一般廃棄物排出量 削減	16,458.1 kg	前年度 実績維持	16,458.1 kg	
2-② 産業廃棄物排出量 削減	5,771.3 kg	前年度 実績維持	5,771.3 kg	
3. 水使用量の削減 (水道水と井水の 使用量削減)	1,450.5 m ³	前年度 実績維持	1,450.5 m ³	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い等での節水対応の継続
4. 化学物質使用量の 把握 (PRTTR制度に該当する 第一種指定化学物質の 使用量を把握)	24.7 kg	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う		
5. 自らが生産・販売 ・提供する製品の 環境性能の向上及 びサービスの改善 (廃製品・廃部品の排 出量削減)	2.0 Kg /月 ※2023年度 改善対象の値	廃製品・廃部品の排出量削減 について環境経営計画にて 計画設定して取り組む		<ul style="list-style-type: none"> ・リミットスイッチ生産時の廃棄量削減 ・基本スイッチ生産時の廃棄量削減
その他取り組み	朝礼等での社員への意識づけ、環境推進委員会や掲示板での情報発信・啓蒙活動、エコキャップ運動の継続、古切手回収、会社近隣のゴミ拾い等			

■ 購入電力の二酸化炭素排出係数については、2018年度中国電力調整後排出係数「0.636 kg-CO2/kWh」を使用

【会社紹介】新しいものづくりへのチャレンジ

多品種少量のセルラインから自動機生産ラインまで多岐にわたるものづくり力を保有し、顧客のニーズにフレキシブルに対応しています。

また、徹底3S活動、Good Cycle活動（小集団活動）を通じて、新しいものづくりを牽引する人材育成を進めています。

Good Cycle活動は、正社員全員が参加する改善活動で、創業の2014年から継続しています。部門単位のチーム（現7チーム）が、半期で実行するテーマを設定し改善を進め、年2回（9月・3月）報告会を開催しています。



多品種少量セルライン



少品種中量自動機ライン



生産改善



Good Cycle活動



徹底3S活動 現場清掃（毎朝実施）



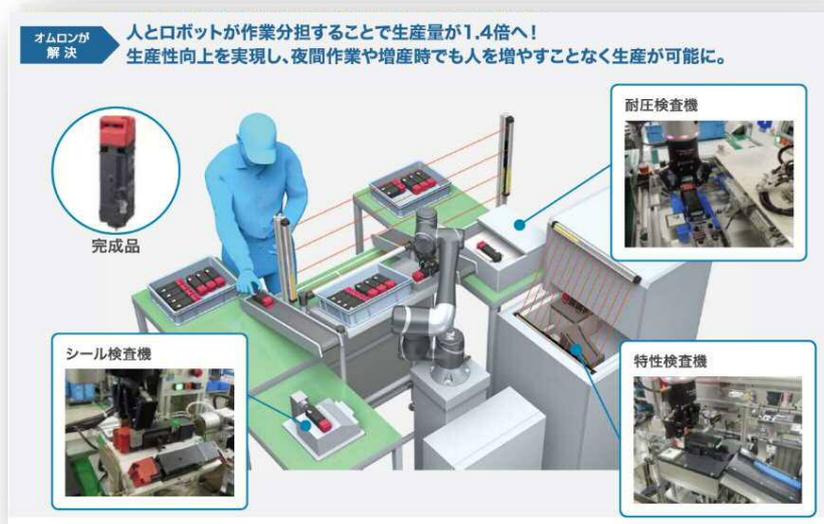
Good Cycle活動 改善報告会

協働ロボットの導入

2020年から、人と協調して“働く”、協働ロボットを導入し、これまで人手で行っていた作業の一部を自動化することで、人手不足の解消、作業ミスの防止、生産能力の改善につなげています。

各種センサの設置により、「人が近づくと動きを遅くする」、「人が触れると緊急停止する」といった安全機能が備わっています。

● 2020年10月～1台稼働開始



オムロン様のHPで紹介をされています！

現在、スイッチの生産ラインで3台が稼働中！

● 2021年5月～2台稼働開始



【参考】

従来の産業用ロボットは動作スピードが速く、また、力も強いため、不用意に近づくと、深刻な事故につながりかねず、法令で安全柵の設置などが義務付けられています。

素人化を目指した技術開発

基本スイッチには超高感度タイプがあり、数ミクロンの動作特性を調整する作業があります。自動化が困難で、熟練者による手作業に委ねる状況でした。誰でも作業することができる「素人化」をコンセプトに、極小特性を計測できる高精度で作業性も良くローコストな測定器を自社開発しました。



画像検査の自社開発

製造工程の中には、顧客の要求品質を確保するため、キズ等を目視で検査する工程が多数存在しています。

目視検査は、習熟が必要であり、ベテランの配置が必要でした。

誰でも作業することができる「素人化」をコンセプトに、画像検査の自社開発を進め、判断作業の素人化、誤判定の削減、身体的疲労の軽減につなげています。

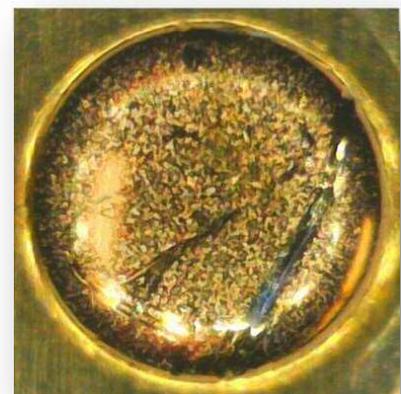
< 画像処理（前） >



照明やカメラの映り込みを画像処理で補正し、キズを見やすくする



< 画像処理（後） >



カラクリ発想による技術力の強化

機能的でローコストな自動化を目指して発想力を磨くべく「カラクリ技術」に注目しています。

2023年11月には、ものづくり企業の多くが参加する「からくり改善くふう展2023」に出展し、当社の技術力を評価してもらおうと同時に、これまで入手出来なかった大手企業などのアイデアを直接確認し、生産技術者のスキルアップに繋げています。



【期待・効果】

- ・メカニカルな原理知識習得
- ・柔軟な発想力の醸成
- ・シンプルで維持(保全)が簡単
- ・革新チャレンジへの起爆剤

大企業と競う!(越える)
大企業から学ぶ!

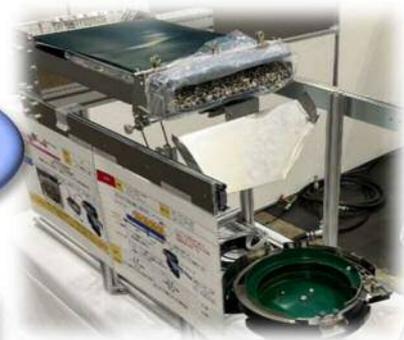
【からくり改善くふう展2023への出展】

2023年11月15日～16日 ポートメッセ名古屋にて開催

- ・出品事例数： 86社 351事例
- ・来場者総数： 6,136名



約300人の見学者で
大盛況!!

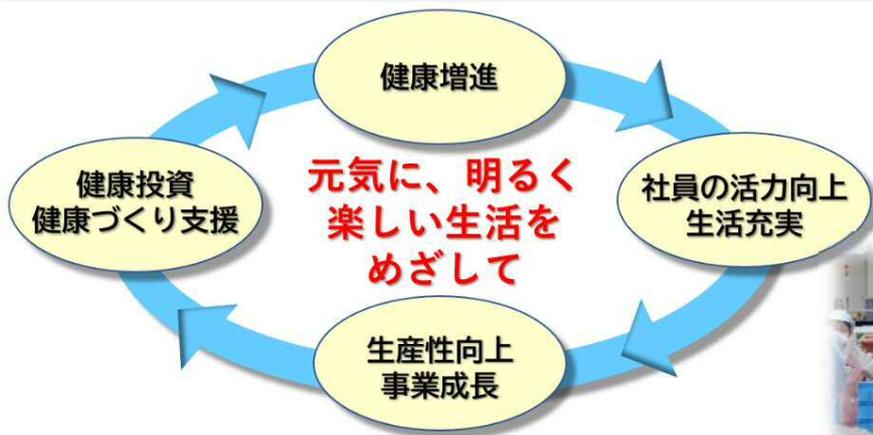


【会社紹介】新しい価値創出へのチャレンジ

健康経営の取り組み ～ 2022年度から取り組み強化 ～

●取り組みの目的・思い

- ・今働いている社員に健康で長く働いて欲しい
- ・仕事をする以前に健康でなければ人生そのものが楽しくない
- ・社員が心身ともに健康でいてこそ会社は発展する



●健康セミナーの定期開催

- 2022年6月：講師 中国労働衛生協会様
「健診結果を活かした健康づくり」
- 2023年9月：講師 山陰ヤクルト販売様
「睡眠チェックで健康管理」
- 2024年8月：講師 全国健康保険協会様
「食べる力は生きる力」



乳がん、子宮頸がんの検診バスを会社へ配車

●がん検診の強化

<2022年度 定期健康診断>

- ・ピロリ菌抗体検査

<2022年度 出雲市がん検診>

- ・乳がん、子宮頸がん検診の受診奨励

<2023年度～ 定期健康診断>

- ・前立腺がん検査（腫瘍マーカー検査）
- ・乳がん、子宮頸がんの検診バスを会社へ配車

●定期健康診断 有所見者への再受診フォロー強化

- 2023年度：再受診率98%
- 2024年度：再受診率100%

●健康行動の強化

- 2022年5月～：ラジオ体操 就業開始時実施
- 2022年10月：各自が設定した健康行動の達成に向けた取り組み
- 2024年 2月：健康アプリ『サントリープラス』導入

<健康経営優良法人> (中小規模法人部門)

2022年～3年連続で認定



発行日 2024年10月11日

発行者 株式会社 出雲東郷電機

環境管理責任者 山崎 晃一

担当者(事務局) 大村 美恵子

所在地 島根県出雲市西林木町626-1

連絡先 TEL:0853-23-1811

FAX:0853-24-8121



IZUMO TOGO
ELECTRONICS Corporation